

西馬城地域づくり協議会だより

～ 元気 やるき みんなで育てよう 豊かな西馬城 ～

第 16 号 平成 28 年 8 月
発行：西馬城地域づくり協議会
事務局 TEL・FAX 25-6828
25ne3i@bma.biglobe.ne.jp

救急救命法の講習会が開催されました

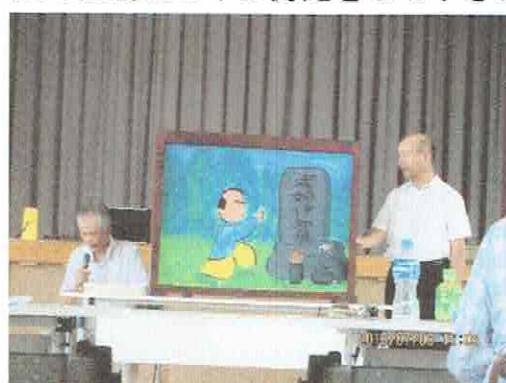
7月1日、地域、PTA合わせて約30名の参加がありました。AEDの使い方を体験しましたが、近くにAEDがない場合でも心臓マッサージを施すことの大切さを教わりました。(別紙に参考資料)



「公開講座(西馬城の歴史と文化財)」が開かれました

7月3日、約50名の参加がありました。小倉正五氏の講演では、西馬城がかつては宇佐神宮と安心院の妻垣社を結ぶ幹線道だったことなどが話されました。地元の加藤邦昭さんが紙芝居でお伊知のことを紹介しました。伊知の墓、生目神社のフィールドワークもにぎわいました。

なお、今回の催しに先立ち、内山地区の有志の方々が伊知の墓周辺の木の剪定をして下さいました。



子どもたちとふれあいレクを楽しみました

7月12日、高齢者学級(幡手紀元委員長)の活動の一環で、ボランティア協会の小野誠さんのリードにより、西馬城小学校の子どもたちと一緒にゲームや指の体操などをしました。



西馬城の8月行事

※皆さんにお知らせしたい行事等は20日までに事務局へ連絡を

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 紙	4	5	6 広島原爆の日
7	8 小学校登校日 びん・ペットボトル	9 長崎原爆の日	10	11 山の日	12	13 盆(迎え)
14 盆(盆踊り)	15 終戦記念日 盆(送り)	16	17	18	19	20
21 9:00 岩屋観音講	22 不燃ごみ	23	24 秋葉様(下矢部)	25	26	27
28	29	30	31			

宇佐市指定文化財お伊知墓について(2)

伊知の評判を耳にしたお殿様は、その真偽を確かめるために2人の使者を矢部に派遣し調べさせました。うわさはやはり本当でした。奥平の殿様はいたく感動し、ほうびとして米を与えその行いを大いにほめ称えました。

やがて義母も義弟も亡くなり、伊知はその後30年間一人で暮らしその生涯を閉じました。明和5年(1768年)68歳でした。

伊知が亡くなってさらに30年が経ったころ、奥平の5代目の殿様昌高侯は伊知の孝行ぶりを改めて評価称賛し、碑を建て、夫の親戚の子を跡継ぎとして家を再興させ、田地・農具・牛馬・白銀25枚を与え、さらに伊知を称える短歌や長歌を作り、藩臣にも歌を作らせました。

以来、奥平の歴代の殿様は伊知の墓にお参りすることが慣例となり、9代目昌遠侯が明治3年(1870年)に展墓したのが最後です。明治33年に和間村の蝮木八衛氏の発起で伊知の133回忌が盛大に執り行われました。その記念碑が伊知の墓の横に建っています。

西馬城の伝統行事 秋葉様(下矢部)

「秋葉様」は神仏習合の火除けの神様です。静岡県の浜松に秋葉神社があり、下矢部の秋葉様はその分霊をいただいたものです。下矢部では毎年8月24日、長興寺の境内において地区の無火災・無病息災を願って、盆踊りや面白く工夫を凝らした仮装踊りが行われます。

見る人を最も沸かせた踊りには豪華な賞品も用意されています。

他地区の方も一度見物に来られてはいかがでしょうか。踊りは20時から。



応急処置 ためらわらない

反応する？

声を掛けて、肩をたたいて

反応しない、けいれんなどの変な動き、判断に自信がもてない時



すぐに119番!

AEDがある場合は近くに
いる人に持ってきてもらう

電話は
つないだままで



通信指令員がどうすべきかを
教えてくれる
できればスピーカーで

普通の呼吸をしている？

胸や腹の動きを見る(10秒以内で観察)



呼吸していない、いびきのような呼吸、わからない

普通の呼吸

体を横向きにさせてから、
救急隊を待つ

胸を強く押す!



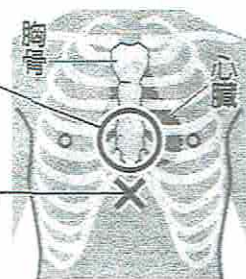
●胸が5センチ沈み込むように

●いやがるような反応が出るまで押し続ける

●1分間に100~120回の
テンポで
例)「どんぐりコロコロ」
のテンポ

●押すのは胸の真ん中
(乳首と乳首の間)。
胸骨がある硬い部分

●やわらかいみぞおち
は押さない



AEDがきたら、すぐ電源を入れ、音声に従って使う

除細動(電気ショック)の時以外は胸を押し続ける

日本蘇生協議会への取材などによる

素早く胸押し救命率アップ

もしも目の前で人が倒れたら……。救急隊の到着までに応急処置ができるかどうかで、救命率は格段に上がるそうです。最新の応急処置をご紹介します。



講習会などで「気道確保」「人工呼吸」「胸を押し(心臓マッサージ)」を習った人も多いかもしれない。だが、一般社団法人日本蘇生協議会が昨年、ガイドラインを改訂。「自信がなかったら、まず胸を押し」ことを強調した。人工呼吸は「講習を受けて技術があり、やる意思がある人」の場合に薦める。

病院外で心停止した全国の症例を分析すると、胸を押しただけの場合と、人工呼吸を組み合わせた場合とでは救命率はあまり変わらなかった。同協議会代表理事で静岡県立総合病院の野々木宏医師は「人工呼吸でもた

ついたり、躊躇したりするより、1秒でも早く胸を押し方が良い」と話す。



具体的な例で教えてもらった。ある日の夕食後、突然リビングで祖母が倒れた。まず反応を確認する。「大丈夫?」。声を掛けて肩を揺するが、目を開けず、返事もない。体は引きつけのよう動く。野々木さんによると、「体が動いていても、心停止している場合がある」。すぐに119番通報。

消防署の通信指令員から具体的な指示を受ける。「普段通りの呼吸はありますか」などと聞

かれるので、祖母を観察する。

「がー、がー」。祖母はしゃくり上げるように、いびきのような音を出している。心停止している、このような状態になることもある。「もし心停止していない状況で胸を押ししても重大なことにはならない。でも、心停止していたら救命率はどんどん落ちる。迷わず押しして」と野々木さん。

押しするのは「胸の真ん中」の胸骨がある硬い部分。一点に力がかかるように手のひらを重ねて押し。5秒ぐらい胸がへこむ強さが目安。心臓を押しして、ポンプのように血液を脳に送るイメージで。野々木さんは「押し過ぎを心配する人がいるが、骨にひびが入っても致命的ではない」という。子どもも処置は同じだが、体の小さい子どもも乳



児の場合は胸の厚さの3分の1沈む程度に片手や指で押し。

外出先などで近くに自動体外式除細動器(AED)があるなら、119番通報している間に他の人に持ってきてもらう。ただし、AEDは心臓がけいれんする心室細動を電気ショックで正しい動きに戻すものなので、完全に心臓が止まっている場合は「電気ショックは必要ありません」と音声ガイドが流れる。その場合も、ガイドに従い救急隊の到着まで胸を押し続けることが大事だ。

総務省消防庁の2014年のデータでは、救急隊が到着するまでにかかる時間は全国平均8・6分。この間、一般市民が心肺蘇生をしたケースは5割超にのぼり、1カ月後の生存率は15・4%だった。一方、何もなかった場合は8・4%だった。

(松川希美)